

河曲地区地域づくり協議会

広報 かわの

令和5年3月20日 第12号

小学校体育館の建て替え

令和7年3月完成の日程で

市議会承認、新築事業スタート

令和4年12月、鈴鹿市議会補正予算審議の場で河曲小学校体育館の増改築事業に係る用地測量、登記、地質調査、設計等の経費総額2160万円の原案が可決成立、いよいよ令和6年度中の本館完成を前提とする体育館新築事業（屋内運動場の増改築）がスタートしました。

右の写真と下掲の図表は昨年12月19日に河曲地区市民センターで開催された事業説明会の模様と市から提示された予定スケジュールです。内容は用地、許認可、設計、土木工事、建築工事など大きく6項目に分かれていますが、要点は建築工事の日程です。建築設計と土木設計、周辺の用地基盤整備等を令和5年の年明けから始め、所定の時期に済ませたうえで、建屋の建設を令和6年3月に開始、令和7年3月10日完成の日程で進めて



いく、とのことです。

説明会は鈴鹿市教育委員会教育政策課小林課長の挨拶に始まり、澤田学校施設GL、高山政策推進GL、および道路整備課の山本建設第一GLの三氏から明快な事業計画の説明がありました。事業運営にあたり、6年越しの地域からの要望をしっかりと受け止めた上で事業を進める、との市側の姿勢が随所に垣間見えて、地元の受益関係者として大変嬉しく事業説明を聞くことができました。

次頁に新屋内運動場の施設概要と工事自体にかかる関係資料を引用しておきます。

河曲小学校屋内運動場増改築事業の予定スケジュール

内容		R4年度			R5年度												R6年度												R7年度													
		12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
用地	用地整理(測量,境界立会) ・学校敷地全体+購入用地	1~3月																R6.4.1~ 建設業週休2日制導入(罰則付き時間外労働規制)																								
	購入用地の売買契約 ・十宮町1379番(928㎡すべて) ・十宮町1380番(1,676㎡すべて)																																									
許認可	開発許可(土木工事) 計画通知(建築工事)					開発許可					計画通知					検査																										検査
設計	建築設計, 土木設計, 地質調査				・造成・道路拡幅設計 1月~7月 ・外構・駐車場設計 6月~12月 ・建築設計 1月~12月 ・地質調査 1月~4月																																					
土木工事 (1期)	東側・南側道路4m拡幅工事				7月~12月																																					
	造成・道路拡幅工事(西側)				9月~3月																																					
建築工事	屋内運動場増改築工事・関連工事																R6.3月~R7.3月10日 ※ 3/20卒業式は新屋内運動場で予定																									
	屋内運動場等解体工事																												3月~7月													
	単独浄化槽解体・配管切替																												4月~8月													
	プール付属棟トイレ水洗化																												8月~12月													
	渡り廊下建築工事																												7月~2月													
土木工事 (2期)	駐車場工事 ・購入用地																												7月~3月													
	外構・駐車場工事 ・屋内運動場まわり																												7月~3月													

◆ 河曲地区地域づくり協議会への説明 : 第1回目(R4.3.29) ⇒ 第2回目(R4.12.19) ⇒ 第3回目(R5年度に設計内容説明を予定)

16 河曲小学校屋内運動場増改築事業 新屋内運動場の施設概要

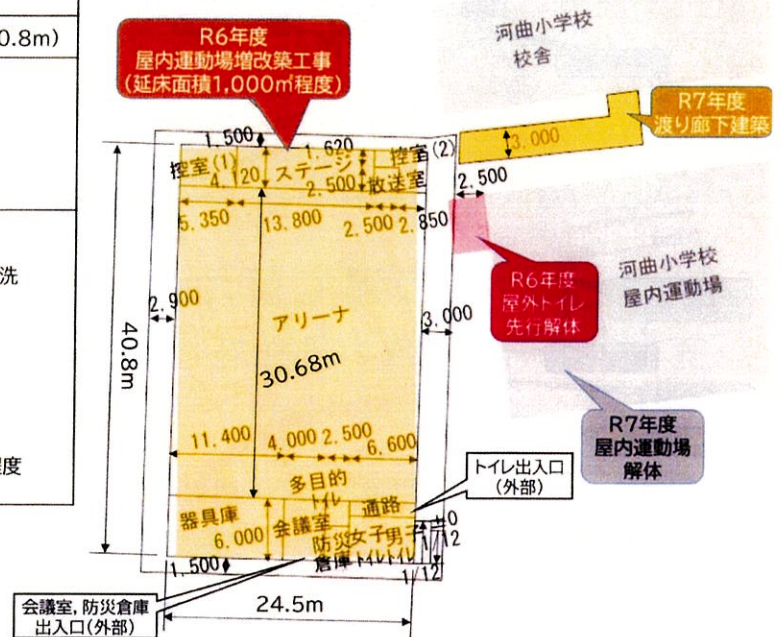
※ 設計業務により変更の可能性あり

屋内運動場の施設概要	
構造	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造(小屋組み)
規模	平屋建て 延床面積1,000㎡程度 (東西24.5m×南北40.8m)
部屋	・アリーナ752㎡、ステージ ・控室(1)、控室(2)、放送室、器具庫、キャットウォーク ・会議室(避難所対策本部)、防災倉庫 ※ 外部から利用可能 ・男子・女子トイレ、多目的トイレ、通路 ※ 外部から利用可能
機能	・調光式LED照明(アリーナほか) ・放送設備 ・トイレ(すべて洋式トイレで各1か所洗浄装置付き)、自動水洗 ・窓ガラス(複層強化ガラス) ・合併浄化槽(屋内運動場、校舎の汚水・雑排水を処理) ・外部手洗い、バリアフリースロープ ・NTT災害時特設公衆電話、会議室にLAN配線 【設計において導入を検討】 ・LPガス空調設備 ※ 災害による停電時でも作動、自家発電機の機能付き ・水害を考慮し、1階床面高さをGL(標高12.1m)から1m程度かさ上げを検討

参考]

- ◆ 石薬師小学校屋内運動場
- ・R3年建て 延床面積961㎡ アリーナ面積685㎡
- ◆ 栄小学校屋内運動場
- ・H28年建て 延床面積894㎡ アリーナ面積698㎡

平面プラン(案)



11 河曲小学校屋内運動場増改築事業 工事範囲



新体育館は平屋建、延床面積1,000㎡、実際に運動用に使えるアリーナは752㎡と計画されています。この広さは平成28年に出来た栄小学校体育館の698㎡、令和3年に完成した石薬師小学校体育館の685㎡よりやや大きめです。ただし今後の設計業務の推移により「変更の可能性あり」との説明を受けました。

新施設は防災倉庫を備えていて、現在の体育館と同様、緊急時の避難所対策本部となります。

今回の2年余に及ぶ一連の工事箇所については、左の写真にあるとおり、①新体育館とその西の駐車場の整備、②プールの南側の道路拡幅、③運動場東側の道路拡幅、の三か所になります。いずれも車の往来をより安全にするためです。

②の改良により、地区センターへのアクセスも便利になります。

また、外構の改築ですが、左下の図面にあるとおり、大きくは、①調整池兼臨時駐車場、②駐車場、③屋内運動場周辺外構、④道路(市道十宮418号線)、の4ヶ所が計画されています。

常設駐車場の駐車可能台数は34台、屋内運動場周辺では35台、の計画です。フェンスは1.2mから1.5m。

地域住民にとって有難いのは、上述の市道418号線の道路拡幅です。現行の道幅に、学校用地と調整池兼臨時駐車場用地を一部道路として活用整備して道路幅員6mの道路とするそうです。

※ 設計業務により変更の可能性あり



国分の古墳群

『河曲村考古誌考』が伝える景色

河曲地区の古墳群

考古博物館発の『年次報告書』や『鈴鹿市史』、さらに地元の田中勤氏の最近の論考などに依れば、河曲地区内には、昔はかなりの古墳があったこと、そして今もなお幾つか残っていること等の状況が判ります。因みにそうした論考から古墳の所在地と名前を少し挙げてみると、次のようになります。

国分：富士山古墳群、大鹿山古墳群、狐塚
河田：南山古墳群、口山古墳群、中山古墳群
山辺：山辺古墳群
木田：大谷古墳、磐城山古墳群、蛸田古墳
須賀：萱町須賀古墳群

国分の古墳群

では今から87年前の昭和11年頃、まだすこし古墳が残っていた頃、国分や木田在住の古老から聞いた一次情報をもとに執筆された研究誌にはどんな景色が見えていたのでしょうか。

過日、河曲小学校に所蔵されている『河曲村考古誌考』に接する機会を得ました。著者は当時その分野の泰斗、鈴木敏雄氏です。氏は国分や木田の現地調査、及びそこから更に40～50年前（明治10年代後半）を実体験している方々を一次情報源として考古学の一文にまとめられました。

ここでは富士山1号墳の話題性に鑑み、同著（カタカナ書き）のうちの国分に係る古墳群の箇所を抜粋紹介し、当時の村の景色を偲ぼうと思います。

昭和11年2月、河曲村国分の永戸平吉区長と木田の田中傳蔵区長の協力と支援をうけ、里人の話も組み込んで仕上がったワラ半紙ガリ版印刷の論考『河曲村考古誌考』には、国分の6ヶ所に古墳あるいは古墳群があったことがわかります：



富士山1号墳R3. 12. 11 撮影

○ 位置及地勢

河曲村は河芸郡の東北部にあり。北は三重郡内部村に、東は同郡河原田村河芸郡一ノ宮村に、南は河芸郡神戸町河芸郡飯野村に、西は鈴鹿郡牧田村鈴鹿郡石薬師村に隣接す。之に国分、木田、山辺、河田、十宮、須賀、野辺、竹野の諸大字あり。

村の中央には鈴鹿川の本流西南より東北に貫流す。関西本線その北岸に沿ひて通せり。この鈴鹿川の南北にありては地勢上に大なる差異あり。北部は第四紀洪積の菴勢統に属する灰青色の粘土層砂礫層の丘陵地にして大字国分、木田、山辺はこの丘陵の上部又は其の斜面上にあり。南部は第四紀沖積に属する砂土層にして鈴鹿川水の沈積せしものなり。大字河田以下此上にあり。而して上代の遺跡及遺物は主として鈴鹿川北岸の丘陵地に存せり。太字国分に存する古墳、国分寺等亦この丘陵上に在り。

○ 遺跡

一、大字国分

○ 字塚原における弥生式及祝部土器

一ノ宮村大字高岡なる高岡橋より国分に達する里道の北側にして、国分東方、高岡地川原田地と接するあたり一帯の蜜柑山あり。高岡地にかけてこの地一帯を塚原と称す。この地には今も弥生式土器片祝部土器片を埋没散布すること多し。余が明治末初めて此地一帯の石器時代遺跡なることを発見せし頃にありては甚しく多量の弥生式土器片を散布せるを見たり。されどもこの時にありて既に細片にして紋様も薄く残りたるもののみにて明瞭ならざりき。又石器は其東方高岡なる「オ茶山」「オギブル」等にありて、多量の石斧砥石等を発見せしに係らず、この地にては一も発見し得ざりき。因に云ふ、その南方畑地にありては嘗て数基の円墳を存せしが、目下僅に其一二を存するのみ。

○ 国分に於ける古墳

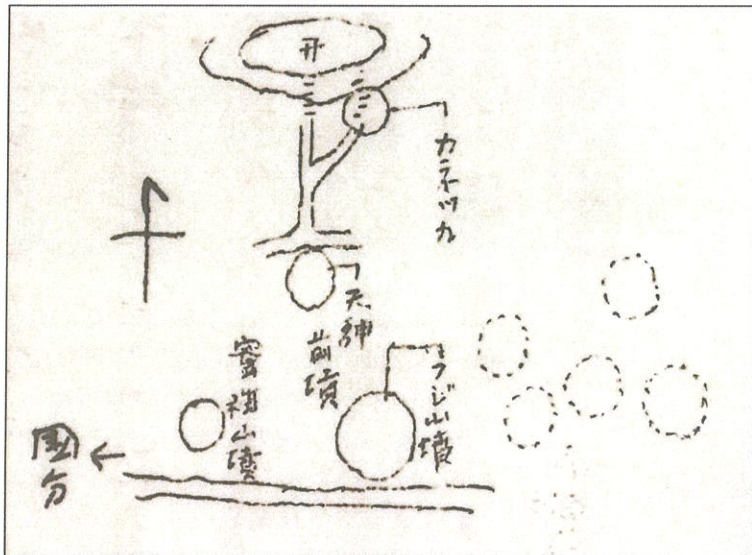
一、富士山古墳。天神社の南方にして大字国分より高岡橋に通する里道の直北に在り。円墳にして径約十六間、高約二間半あり。周囲には幅約二間の空壕あり。北部及西部にありては今尚湿地状をなす。里人富士山塚と云ふ。里人云、一里人嘗て墳上の一本を伐りて病死せしことあり、又数年前、天神社の参道をこの里道に通せしめんとてこの墳の西端を一部堀取らんとせしに議に与るもの何れも病気になるて其の議を中止せしことなどありて里人等相戒めて触るゝを畏ると。里人又云、墳上二百年の老松数株及小祠ありき。祠は天神社に合祀せりと。因に云ふ、本墳の東方に續きて現畑地内には五個の円墳ありしが約四十年前開墾の際破壊せり。何れも径十間程高五尺位にしてその最大なるは二畝歩程なりきと。又云、当時土器及鉄刀片を出せりと。

（注）次頁の写真で破線の円墳群五基がこれに該当

富士山塚はのちに前方後円墳と見直される

其二、蜜柑山墳。富士山墳の西方約一町程の地に一円墳あり、高約一間、径約十間、面積約二畝歩あり。墳上蜜柑林あり。

其三、天神前墳。富士山墳の北方、天神社参道の南限鳥居の南方に一円墳ありき。径約五間高さ約四尺、嘗て発掘せしが何等の副葬品を発見せざりきといへり。



其四、「カネツカ」天神前墳の東北、参道の左方なる別参道開設の際破壊せり。径約五間高約五尺なりき。当時金環二個、平瓶提瓶、脚付口各一個を出せり。並に国分寺に保管せり。更に地形を口するに今の神社の存する地並に其附近には尚幾多の古墳を存せしならんも水蝕甚しくして崩解せしものならん。今稀に祝部土器を見る。

○ 国分光福寺内の祝部土器。大字国分なる光福寺内よりは相当量の布目瓦を出す。その瓦片の堆積地には数片の祝部片を混入せり。さればこの地又はその附近にも嘗て古墳の存在せしことを証するに足るべし。(昭和十年十一月)

○ 国分寺土壇地内及び其附近の祝部土器。・・・又之より東方にて国分の北部より之に通する里道附近(指定区域内)にても一二散見せるを見たり。されば此地方にも古墳の存在せしを証するに足れり。

○ 補記[大字国分、古墳の部に入る]

○ 字念佛山に於ける古墳

字念佛山は大字木田の北方なる南院址の道を隔て、西方にあり。元この地は松林にして其中に五個の円塚ありしが何れも約五十年以前に開墾の爲め破壊せり。何れも径約十間、高五尺程のものなりき。破壊の際、祝部土器刀片などを出せりと雖も何れも散佚せり。

○ 字大鹿山に於ける古墳

字大鹿山は南院址の東南にあり。この地にも元数個の円塚を存せしが之も約五十年前開墾と共に破壊せられて今は其の痕さへ不明なり。今南院址の南方なる墓地の東南方約二町の地(字大鹿山地内)に一円塚残り。径約十間、高約四尺あり。里人云ふ、他の数墳も其大さ本墳と同じ程なりきと。

脱稿に當り調査に際し多大の厚意を寄せられたる国分区分長永戸平吉氏、木田区分長田中傳蔵氏に深謝の意を表す。 昭和十一年二月八日 三重軒主人 鈴木敏雄誌

140 年前の国分の景色

国分の地籍は広大です。現在の集落がある里中の周辺部には往時、手付かずの丘陵地がひろがっていました。里中では昔の人の住まいの上に次の

時代の人が暮らして複合遺跡となっても、その外側には古墳群が散在していました。それで明治の世にまで遺跡として残ったようです。

著者の眼前に広がる昭和11年現在の古墳に係る知見と、削平以前、多くの古墳が残る現場を見ていた人たちの情報を以て、『河曲村考古誌考』は令和5年からおよそ140年前の国分の景色を伝えています。

萱町須賀古墳群

須賀にも古墳があります。直径40尺、高さ6尺の円墳です。のちにその墳丘は神坐となり、阿自賀神社の祭神が鎮座されます。さらに時代を経て木々が茂り小高い森となります。江戸期から膾炙している「神戸隠しの須賀の森」というコトバは池田あたりから眺めると須賀の社の森が神戸の町を覆い隠していることをいいます。

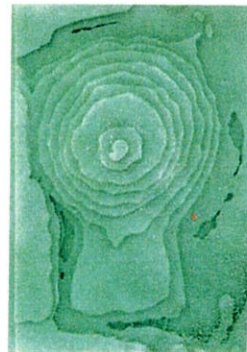
神戸の古墳は萱町筋の旧十一屋酒店あたりに一基あったことが最近確認されました。萱町須賀古墳群とはこの状況を表します。ただし須賀も神戸も沖積平野の狭い微高地のため弥生時代から人が繰り返し集住してきた結果、足元の古い古墳など幾つか削平されてしまったようです。

見えていた景色

古墳時代、神戸や須賀から北西丘陵地を見上げても大きな前方後円墳の墳頂すら見えなかったかもしれませんが、国分や木田の高台から南の方を見ると眼下には沖積平野が広がり、須賀、十宮、神戸の集住地が点在し、その近くに大小幾つかの円墳がぽこぽこ並んでいる景色が見えていたはず。その頃は木も森も茂っておらず、土饅頭のような小山がそこには並んでいたことでしょう。

墓の主

弥生時代以降、富と権力の集中が派生し、死者の弔いには大規模な仕掛け、つまり墳墓が準備されました。しかし埋葬者が誰かは判りません。国分近傍では西暦500年代になると河曲全域を大鹿氏一統が支配するに至りますが、さらに遡って西暦300～500年代の古墳時代まで戻ると、支配構造はどうなっていたのか、興味はつきません。



鈴鹿市考古博物館速報展2021資料より

◆死骸あつめの人生◆

戸田豊さん

地球の化石採集50年(その2)

7 地元回帰

しかし早朝出勤、深夜帰宅で子供の顔は見ず、休みは石採り三昧。これでは周囲が許さない。両親に一喝され、昭和62年10月、やむなく宝石鑑別センターを退社、翌11月に叔父の経営する五十鈴電装にお世話になることにした。

職種は違うがこれは有り難いことだった。朝晩子供達の顔が拝める。一緒に石採り遊びに行ける。今までとは違う楽しさがそこにはあった。仕事上、この頃、製品搬送のために4Wのワンボックスワゴンに乗り換えたが、休みの日には、これですべての子供を連れての石採りが楽にできた。

お目当ては大垣の金生山だった。セメント用石灰岩を産出するが、実は今から2億5千万年ほど前、古生代ペルム紀の世界的にも有名な石灰岩鉱山である。栄養が良かったのか、他の産地の化石とはサイズが違う。巨大なのだ。ベレロフォン・ナチコプシスなど他所では5～6cmだが、ここ金生山では20cmを超える。シカマイアは2m超の超大型が出る。

余談だが、この金生山の現場にしばしば、有名なカレー会社から粘土や土を買い付けに来ているのを見かけた。不思議だった。製造ラインのどこかを支えていたのだろうか。

金生の鉱山で働いている方とも知り合いになり、子供を可愛がって頂いた。以来、月1回以上ペースの家族出は続き、この30年間で最低360回は行った。おかげで良質な化石を採集させて貰った、否、貰っている。ひとえに感謝である。

8 ネパール 地球環境保全ボランティアで

平成10年のこと、子供が鈴鹿高校に入ると、突然、ネパールへ行く話が決まった。すると、お父さんも誘って来いと山中先生に言われた、という。山中君は高校の同級生で、山岳部で鳴らしていた。鈴高では山岳スキー部の顧問とのこと。

ネパールでは地球環境保全事業として日本からのボランティアを前提に、5年計画で植樹を行う

という。記念すべき第1回目なので、8月9日から11日間一緒にいかないと誘ってくれたようだ。46歳、体力が問題で、周囲に迷惑をかけないか心配だったが、こんな機会はもうない、と参加を申し込んだ。もちろん、アンモナイト採集の情報など入るかもとの淡い期待も心の隅にあった。

ここでいうアンモナイト化石は、サリグラム、ネパールではシャーリ・グラマーと呼ばれるノジュールで、神様とされている化石である(下掲の写真)。産地はジョムスンという4000m級の山の沢だが、ボランティア遠征であるので、採集にそこまではいけない。とにかくジョムスンからカトマンズまで驢馬や徒歩ではこぼれてきて、売買されていることは知り得た。



植樹には、初めはバス、途中で道がなくなると徒歩で、ナラヤニ県ダンダバス村まで出かけた。現地滞在3泊4日、日本が寄附した学校でテント宿泊しながらの環境保全活動だった。

電気も水道もない。体は雨でべたべた。習慣がないからフロもない。ヒルは多い。全員何度も血を吸われる。でも子供達の目の輝きが素晴らしいかった。いつもニコニコして未来を見つめている。希望を持っている。国全体は貧しい。しかしダンダバスの人達の心は違っていた。

参加者全員、先生、大人、生徒達、もう二度と行きたくないと言うものは誰一人いなかった。私達が忘れていた事、忘れかけている事を思い出させてくれる国だった。



ダンダバス村植樹除幕式 8月12日

9 ネパール再訪

この思いが忘れられず、アンモを現地まで採りに行きたい気持ちもゼロでは無くて、平成11年8月、第2回目11日間遠征に参加することにした。

今回は仕事の都合でひとりでカトマンズのトリブバン空港まで行くことになった。そのため単独行動になり、ダンダバス村へは行かなかった。カトマンズ市内の歴史など教わりながら日・英・仏語をあやつるギャンさんと一緒に廻ることができた。カトマンズで入った紅茶店の壁や床は、海百合の化石（インド産らしい）が貼ってあって美しかった。幸い、アンモ探しの時間も少しとれた。ダンダバス村での仕事を終えてきた全員とはカトマンズのペンションで落ち合った。

8月10日に生徒も先生もみんな帰国した。それを見送った翌日、息子と二人のネパールが始まった。通訳のアニール君と一緒に、グリーンバスで6時間半かけて最寄のポカラへ向った。

カリガンダキ川沿いのジョムスンには中生代ジュラ紀から白亜紀の地層で、そこからはアンモナイト、ベレムナイト、腕足、二枚貝の化石がでる。



イエティ航空 ポカラ発ジェムスン行121便

8月12日、小型プロペラ機に搭乗、いざジョムスンへ、と思っていたら、15分程で空港に引き返すことになった。上のジョムスンの天候が悪くて着陸できないとのこと。そのまま返金してもらい、ホテルに帰った。

急遽、息子と一緒にポカラの中心市街に出かけ、おばちゃん達がやっている店に立ち寄ってみた。アンモナイトのことを訊くと奥からどんどん出してくる。息子が、大きな箱を全部買うから、とサービス交渉を始



カトマンズ ダンパール広場で買い物 8月16日

めた。渋っていたが、最後は譲ってくれた。重い、どうやって持ち帰るか、メキシコの空港での検問時と同じ、税関でバックを開けられ、調べられるのか、と不安が頭をよぎる。

空港では楽しく交流した先方の学生達に見送られて帰ることになったが、やはり税関で「バクダン？」と言われて開けさせられた。化石は他人のも全部自分が抱えていて、多過ぎ重過ぎでひとり税関に捕まった。学生達は何度もネパールに来ていて税関の人とは顔馴染みなので、モニターを見ながら笑っている。例の袖の下を渡して無事通関。やはり今回もつまずいたことだった。

この後、子供、妻、親戚がネパールを訪れた。みんな同じことを感じて帰ってきた。これからの人生にいろんな意味で影響を与えるだろうと思う。山ちゃん、ありがとう。



アンモまとめ買い

10 三主要サイトで化石採集

平成20年、35歳から始めた自営業を55歳でやめたあと、同業者だった方の会社などでお世話になり、正社員として、パートとして、あるいは県の緊急雇用で手伝った。そのあとスーパーサンシに入り、現在に至っている。

その間の平成25年、東海化石研究会を退会した。また日本古生物学会も退会をお願いした。その前後、採集旅行は少し控えていたが、国内の主要サイト3ヶ所、祇園山、横倉山、一重ヶ根（ひとえがね）、には出かけた。

先ず、祇園山は4億3千万年前のシルル紀に属し、G2G3と言えは世界中で知らない研究者はいない有名な宮崎県内の現在全山私有地の山、次いで横倉山は同紀同年前のもので今は市有地の公

園となった全山採集禁止の高知県内の山、そして一重ヶ根はクサリ珊瑚を産出するはずだが、4億2千万年前の地層からはいまだにクサリサンゴは発見されておらず、筆者未発見未確認のシルル紀後期の幻のサイトである。

とはいえ、この3ヶ所の採集旅行では大きな収穫を得た。当資料館の所蔵品のうち最古の部類に入るアカントハリシテス・クラオケンシス、和名で鞍岡クサリ珊瑚、は祇園山で採集、シュードアリシテス・キタカミエンシス、和名で北上クサリ珊瑚は横倉山で採集、そしてクサリサンゴではないが和名を持たないオウロシステイス・ヒトエガネンシスは、一重ヶ根で採集した当該産地の学名がついた化石だ。

3拠点でのこれら採集化石は、地質年代こそ僅差1000万年だが、時系列でみるとその環境、すなわち水温、塩分、深度、海底の泥か砂か岩かの状態、などにより相互に異なることが判る。原石を介した比較確認作業は興味深く楽しい。

また、学術的に奥の深い採集化石に愛知県刈谷市のハイガイがある。要するに普通の海の貝なのだが、自然のままで食べられることなく堆積して石となると境川の堆積物（新生代、第四紀、完新世、6500～5500年前）とか、逢妻川の堆積物（新生代、第四紀、完新世、2500年前）とかに分類されて古生物学の研究対象となる。

一方、境川や逢妻川から採ってきて人の手に触れ、口に入り、残って捨てられた貝殻は、中手山貝塚（縄文期、3500～2500年前）や天子神社貝塚（縄文期、4500～3500年前）となり、素性は同じ海の貝であるのに考古学の研究対象となる。

11 とりあえずの当館一押し

最近はコロナもあり、年10回ほど県内近場の



おおあかふじつぽ化石 120 kg 美里村柳谷

磯部町恵利原、美里町柳谷などで探している。

恵利原は中生代ジュラ紀、恐竜のいた時代の海の中の化石（層孔虫）が出る。ウニのトゲ（キダリス）、魚竜の歯、或いは骨が出ればすごいことになるサイトだ。

柳谷は新生代・新第三紀・中新世の地層で、現在とほぼ同じ海の生物の化石が出る。写真は当時小学2年の息子が採集したサメの歯の化石だ。その化石層（一志層群）の厚みはなんと1000 mを超える。



この2サイトから最近、苦勞して運び入れたものが2点ある。令和2年5月、恵利原の広ノ谷で採集し、少し削って重さ80 kg程にしてから沢と林道を友人の穴戸と2人がかりで200 mおろして車に積み込んだ層孔虫（ストロマトライト）と、令和4年2月に美里町柳谷から私と地主の丸井さん達の計三人がかりで運び出したおおあかふじつぽ *Balanus* の半塊120 kgだ。チェーンブロックで100 kg程を引きずり、10 kgの崖を吊り上げて、やっとのことで車に積み込んだ。残りの半分は置いてきた。個人的にはこれらが今のところ当館一押しの採集化石だ。



層孔虫化石 80 kg 恵利原広ノ谷 撮影/穴戸

昨年、赤嶺先生の御子息（私より1年先輩）とその同僚の先生が二人して神戸高校のこれまでの全採集標本を整理したうえで展示している、と中日新聞が報じた。在学中、私達は採ってただけで整理や片付けはしなかった気がする。だけに、例の二枚貝も残っていれば嬉しい限りだ。

私の収集した化石も、これからの子供達の役に立てば有難い。倉庫と貨車で固めた資料館にはいっぱい化石がある。学名はわからずともラベルはしっかり書いてきた。これだけで「化石は生

きている」と思う。是非、見に来ていただきたい。そして石の話を一杯したい。まだまだ化石は増えるはず。体力の続く限り化石好きの皆さんと一緒にに行けると嬉しい。

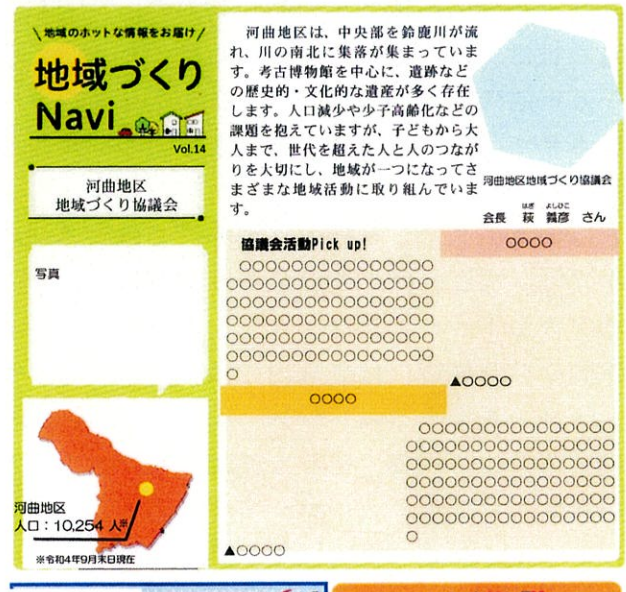
但し、採集については個人所有の土地や崖の危険な場所などが多く、まずは現地の人達に訊いてからの採集が本来。一人では絶対に行ってはいけない。事故が生じた時、誰も助けに来てくれない。

もうひとつ、採って持って帰った化石は絶対にあちこちに捨ててはいけな。カメや魚などを勝手に川に捨てては生態系が崩れてしまう。同じ事だ。不要となった石はこの「ゆたか資料館」へ持ってきて置いて行って下されば、いろんな石達と一緒にいてくれるようになる。

亡くなった友人のご家族から譲り受けた化石がある。本人は採集場所が判っていても、他人には分からない。でも見ていただければ、命を吹き込んで下されば、又、化石が生きる。

採集も収集も楽しくやってほしい。死骸あつめが私の生き甲斐。私は、自分自身が死骸になるまで化石採集に頑張りたい。(完)

『広報すずか』からの取材を取材



1月23日、『広報すずか』に連載中の「地域づくりNavi」の取材で、情報政策課広報Gの西岡さんが河曲に見えました。

読者の皆様は市報を既にお読みになっていますので、これはその取材裏話です。およそ1時間の対面取材は、予定稿で埋まった紙面の残りの半分を埋め込む話題の絞り込み作業になりました。

掲載用写真として活動事業を撮った20枚と共に、コロナ禍とはいえ、小中学校・博物館の草刈、ラジオ体操、国分寺まつり、サテライト型避難活動、防災給食など、地区センター、公民館とタイアップ、さらに支援職員諸氏との密な連携、など話題は尽きませんでした。また、ピンクの仕事着は河曲地区の活発な諸活動とマッチして「写真映えるのです」と盛っておきました。

河曲地区地域づくり協議会広報紙

『広報かわの』第12号 令和5年3月20日 発行
発行責任者 河曲地区地域づくり協議会 事務局長
事務局 河曲公民館内「地域部屋」 電059-390-1295

12000

10000

8000

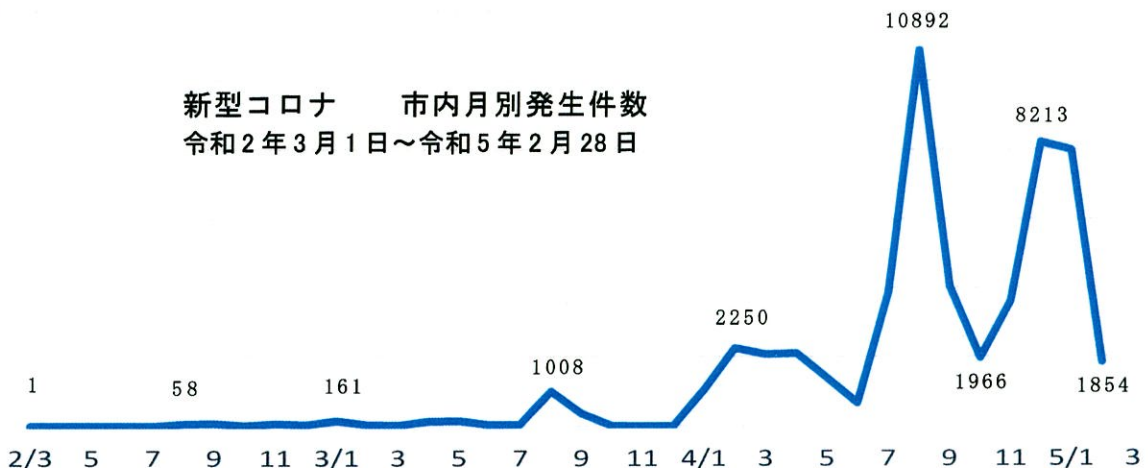
6000

4000

2000

0

新型コロナ 市内月別発生件数
令和2年3月1日～令和5年2月28日



河曲地区防災計画

地区の目標

地域における防災体制の強化を目指します。

河曲地区の特性

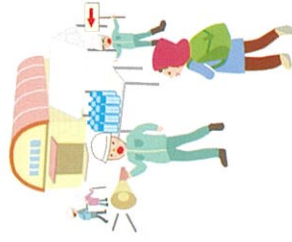
- 河曲地区は、中央部を一級河川鈴鹿川が西から東へ流れ、川南と川北に分かれ木田橋が南北間を結んでいます。
 - 当地区の地形は、鈴鹿川以北では、大谷、国分が高位段丘、木田、山辺が低位段丘、鈴鹿川以南では、水田が扇状地平野につくられ、須賀、十宮、野辺、竹野の集落は低位段丘に位置しています。河田、十宮の一部に自然堤防地形もみられます。
 - 地区の標高は鈴鹿川以南では、10～15m、木田で約20m、国分は40m程度です。地層としては10～15mの深さの沖積層の地域が大半を占めるが、表層は砂礫質です。
 - 鈴鹿川を境にして、北側は比較的標高が高いため河川浸水の危険は少ないが、一部土砂災害の警戒区域に認定されています。対して南側は標高が低く、ほぼ全域が河川浸水による被害にあり可能性があります。
- (水深は3m、戸建1階の天井付近までつかる高さ)

地区の課題

- 防災・減災の仕組みづくり
- 災害弱者への対応
- 防災意識の不足
- 情報発信共有の仕組みづくり

課題に対する取り組み

- 河曲地区の特性、地震災害の知識、災害に対する備え、災害時の行動などの周知
- 安否確認方法の確立
- 自助、共助の仕組みづくりの促進
- 避難に備えたルール作りの促進
- 防災教育の促進
- 災害時における周辺企業との協力に関する取り決め



【収容避難所】 災害により住居を失った方などが長期的に避難する施設

名 称	収容人員	標高
河曲小学校体育館	168人	12.0m
神戸中学校体育館	623人	12.0m
河曲公民館	83人	11.3m

【避難地】 地震や火災などの場合に一時的に避難する公園や広場などの空き地

名 称	標高	洪水時
若宮公園	45.8m	
天神公園	48.0m	
木田公園	14.9m	
山辺公園	15.4m	×
川原田公園	15.3m	×
田中公園	10.6m	×
十宮二丁目公園	11.1m	×
宮之前1号公園	11.4m	×
宮之前2号公園	11.3m	×
十宮三丁目1号公園	11.0m	×
十宮四丁目1号公園	10.7m	×
十宮四丁目2号公園	10.9m	×
阿自賀神社境内	11.2m	
竹野一丁目1号公園	15.5m	
竹野公園	17.3m	
野辺公園	14.0m	
河曲小学校グラウンド	12.0m	×
神戸中学校グラウンド	12.0m	×

【緊急避難所】 緊急に避難しなければならない場合に、一時的に避難する近隣の施設

名 称	収容人員	標高
大谷・小谷公民館	44人	48.0m
木田町公会堂	83人	18.0m
河田町公会堂	53人	12.0m
レインボー会館	145人	47.9m
須賀町西公民館	82人	11.4m
須賀町東公民館	33人	11.6m
竹野町公会堂	66人	16.5m
竹野町集会所	83人	18.9m
市営十宮団地集会所	50人	10.6m
野辺町集落センター	76人	14.0m
山辺町集会所	33人	16.7m

【福祉避難所】 収容避難所での生活が困難な高齢者や障がい者の方などが避難する施設

名 称	収容人員	標高
ひまわり苑	老人福祉施設	8.2m
特定非営利活動法人すずのねステックワークすずのね	障害者総合支援法に基づく事業所・施設	33.9m

